

トーク&トーク「まちに元気を！」

～ 全国発、まちおこしに向けた都市漁村交流の可能性とあり方を探る～

都市漁村交流活動は、まちおこしの有効な手段の一つとして、全国各地に取り組みが見られるようになってきています。都市漁村交流推進協議会は、都市漁村交流活動を実践あるいは志向する市町村を中心として、これらの活動を支援する機関として発足しましたが、効果的に機能を発揮するために新たな展開を図る必要があります。

このような中、地域の活性化を目指した都市漁村交流活動を推進するための具体的な方策や、その課題・効果等について、改めて見つめ直す機会を設ける必要があると考えられます。

このため、これからの都市漁村交流の展開方策を探るための意見を述べ合う機会を持つために、本協議会の会員だけでなく都市漁村交流活動に興味を持つ多くの方々に参加していただくシンポジウムを開催することと致しました。

趣旨をご理解頂き、是非ご参加くださいますようお願いいたします。

参加費
無料

日時：平成22年9月21日（火）14：30～16：30

場所：ハーモニーホール 6F 中会議室

主催：都市漁村交流推進協議会

後援：オーライ！ニッポン会議

参加費：無料（先着80名）

プログラム：

講演：『住民・行政・NPO協働で進める地域の
“げんき”づくり』

山浦 晴男氏（(有)情報工房 代表）

活動事例紹介：

三重県熊野市

『わがらの町をわがらで元気に！

～ブルーツーリズムによる漁村活性化～』

濱中 一茂氏（遊木 海と自然のクラブ 代表）

高知県黒潮町

『館長はニタリクジラ～ものを見方を変えて地域資源を発信
する美術館の取組～』

村上 健太郎氏（NPO砂浜美術館 事務局長）



お問い合わせ・参加申し込み先
都市漁村交流推進協議会 事務局
（財）漁港漁場漁村技術研究所
担当：大塚(浩)、川崎
TEL：03-5259-1021
FAX：03-5259-0551
E-mail：kyogikai@jific.or.jp

内容紹介

(1) 講演：『住民・行政・NPO 協働で進める地域の“げんき”づくり』

講師：山浦 晴男 氏（（有）情報工房 代表）

漁村地域や離島地域は、少子高齢化で暮らしを維持することがますます厳しくなっています。この問題の構造は、都市部における中心市街地の衰退と共通するものがあります。そこには日本の地域社会が空洞化し、“げんき”をなくし、次代を担う若者の先行きを不安におとしめている姿があります。

打開の鍵は、住民が自らの地域の資源を活かしてどのように暮らしを作りだしていくか、地域経営の手綱を取り戻し、内発的に地域を“げんき”にしていくことにあります。そのような内発的な地域の“げんき”づくりの支援に取り組んでいます。

陳情の時代は終わり、特産品もない。

けれど地域おこしは可能！

地方でも都市でも不安社会・高齢化社会に生命を吹きこむ

目指すのは、地域が動き出すこと！

必要なのは、信頼感ある支援、ノウハウ、調整力、財源……、

そして住民の夢と意思！

住民・行政・NPO が、地域を「見える化」してコンセンサス得ていくにはー

福祉充実をめざして、過疎・疲弊社会を脱却するにはー



(2) 活動事例紹介：

三重県熊野市

『わがらの町をわがらで元気に！～ブルー・ツーリズムによる漁村活性化～』

発表者：濱中 一茂氏（遊木 海と自然のクラブ 代表）

遊木 海と自然のクラブは、国土交通省（旧国土庁）と水産庁が推奨するブルー・ツーリズム（島や沿海部など漁業を行う市町村の活性化を図り、国民に余暇活動の場を提供を目的とした”漁村滞在型余暇活動の総称）に、地元、熊野市の主導により遊木漁港の漁師 11 名が参加し、発足した団体です。

今日は、あなたも漁師さんですよ～
現役の漁師が実践サポート！
大自然に育まれた熊野灘の美しい潮風
薫る青い海で体感・ご体験下さい！



高知県黒潮町

『館長はニタリクジラ～ものの見方を変えて地域資源を発信する美術館の取組～』

発表者：村上 健太郎氏（NPO 砂浜美術館 事務局長）

私たちの町には美術館がありません。
美しい砂浜が美術館です。
ものの見方を変えると、いろんな発想がわいてくる。
4 km の砂浜を頭の中で「美術館」にすることで新しい創造力がわいてくる。



砂浜が美術館だとすると・・・

「美しい松原が作品です。

沖に見える「クジラ」が作品です。

砂浜に咲く「らっきょう」が作品です。

卵を産みにくる「ウミガメ」が作品です。

砂浜を裸足で走る「子どもたち」が作品です。

流れ着く「漂流物」が作品です。

波と風がデザインする「模様」が作品です。

砂浜に残った「小鳥の足跡」が作品です。